

栄光輝く

長年の功績や日々の努力を实らせ、
栄光に輝いた皆さんをご紹介します

叙勲受章者

瑞宝单光章

おおがみ たくみ
大上 巧さん(今田町上立杭)
陶磁器製造業従事者



功績=伝統工芸業務功労

大学卒業後、京都で3年間磁器を学び、帰郷後は父親のもとで作陶に携われた大上巧さん。伝統の「海老絵」を得意とし、「海老徳利」を作り続ける一方、花器やお皿などを50年間焼き続けられ、2009年に「伝統工芸士」に認定、2021年には県文化賞を受賞されています。また、1978年には「丹波焼陶器まつり」の前身となる陶器市を若手の仲間とともに開催したり、現役最古の登窯の修復にも尽力されたりしました。さらに、小中学生などに陶芸教室を行うなど丹波焼の普及啓発にも取り組まれています。「受章は家族や地域の皆さんのおかげ」と話す大上さん。「夢は生涯現役。今後は、伝統工芸士会で六古窯の展示会を開催したい」とにこやかに話されました。

瑞宝单光章

おおがき はるお
尾垣 春夫さん(牛ヶ瀬)
元 篠山市消防団副団長



功績=消防功労

1980年に当時の丹南町消防団に入団し、33年間、地域の防災・防火活動に取り組んでこられた尾垣春夫さん。2007年から2013年までの6年間は副団長を務め、災害現場においては現場指揮の要として、被害の軽減に大きく貢献されてきました。サラリーマンをしながらの消防団活動では、「火災があれば働いていても休暇に替えて、三田の職場から現場に駆け付けました」と当時を振り返られます。また、団員にケガや事故に遭わせないよう、団員の安全を守ることを第一に指揮に当たりました。受章には、「同僚や家族の支えがあったからこそ、ここまで続けて来れました」と笑顔で話されました。

黄綬褒章

さかい きくよ
酒井 菊代さん(油井)
農業



功績=業務精励

50年あまりにわたり有機農業の実践や普及、女性農業者のリーダーとして活動されてきた酒井菊代さん。保育士として働かれていましたが、子どもの病気が転機となり、食の大切さを痛感。農の道へと進まれました。父らが立ち上げた「丹南町有機農業実践会」に入会し、阪神間での販売を通じて活動の輪を広げられています。また、県生活研究グループ連絡協議会に所属され、農業に関わる女性たちとの交流を広げられるとともに、有機農業者が集う団体「篠山自然派」の副代表としても活躍されています。受章には「今後も楽しく農業を続けていきたいですし、多くの方とつながっていききたい」と話されました。

褒章受章者

旭日小綬章

ささの てつろう
笹野 哲郎さん(川北)
元 日本弁護士連合会常務理事



功績=弁護士功労

1981年に司法試験に合格し、26歳で東京の法律事務所に入所された笹野哲郎さん。その後、司法修習生として過ごされた神戸市へと移り、1987年に現在の事務所を開かれました。会社の倒産処理や民事再生の案件を取り扱う一方、相続問題から離婚まで、さまざまな依頼に向き合われています。「依頼者が反社会的な人物であっても、きっちりと依頼をこなす弁護士をめざしています」と話される笹野さん。44年間の弁護士活動において印象深いのは、不当解雇を争う裁判で、依頼者が企業からあらぬ疑いをかけられ、事実無根を証明したが、30年たった今も感謝のメッセージをいただいていること。「私にとっては当たり前なことでも、紛争に巻き込まれた本人にとっては非日常だったことを思い知らされました」と当時を振り返られます。受章には、「母が自分の力の何割かは人のために働きなさいと言っていた。その教えの一端は担えたかなと思います」とにこやかに話されました。

叙勲受章者

瑞宝双光章

いしだ たかみ
石田 勝章さん(味間奥)
元 大阪城東郵便局長



功績=郵政事業功労

1972年に郵政省に入り、近畿郵政局を経て、山城木津郵便局や大阪城東郵便局、最後は大阪中央郵便局で局長を務められた石田勝章さん。主に人事労務管理業務に取り組み、職員が安心して働ける労働環境の整備に尽力されました。印象に残っているのは阪神淡路大震災の翌々日に神戸に入り、神戸の小学校で被災者の方のために救護班を設置したこと。「職員自身が被災しながらも、何とかしなければという使命感から仕事を遂行しました」と当時を振り返ります。受章に当たり、「上司、同僚や後輩、家族の支えがあったからこそ、郵政人生を全うできました。また、酒井市長をはじめ多くの皆さんに祝福の言葉をいただき、本当にありがとうございます」と感謝の気持ちを話されました。

このほか、**谷田重樹さん(東岡屋)**が、危険業務従事者叙勲の瑞宝双光章(消防功労)を受章されています。

まちの話題

特集
街かどリポート

情報ピックアップ

タウントップ

HOTトピック

市政リーダー

インフォメーション

おでかけ・相談

はぐみ

栄光輝く

まちの話題



夢プランで3高校の魅力を中学生に伝える(12月18日)

市内5校の中学2年生やその保護者に向けて、市内3高校の代表生徒が自分たちの高校の魅力を紹介する「夢プラン」が開催されました。高校生は中学生からの質問に丁寧に答え、参加した中学生からは「どの高校も行ってみよう」という声が聞かれました。登壇した高校生は「3高校での生活っておもしろそう!と思ってもらえるように、楽しく盛り上げながら話すことを心掛けた。ぜひ、市内の高校を選んでほしい」と話しました。

ボール遊びの楽しさを体験(12月12日)



野球未経験者の子どもたちがボール遊びの楽しさを体験する「キッズ・ボールパーク(※)」が岡野小学校で開催。指導役を務めた篠山鳳鳴・篠山産業高校野球部の選手たちが、児童たちに投げ方や打ち方のコツなどを教えました。(※)野球用品メーカーが連携し、開催している普及イベント。

第3回ベースボールクリニックin丹波篠山(12月22日)



小中学生と高校生の野球部員が合同に練習する野球教室が篠山中学校で行われました。これは、野球の普及をめざす日本高校野球連盟の「高校野球200年構想」に基づく活動で、2年前から行われています。この日は、市内3高校の野球部員が投打にわたり指導しました。

U-15ホッケー日本代表に選出(11月18日)

市内を拠点に活動するホッケーチーム「HC HYOGO HEARTS」に所属する杉田元さん(丹南中3年)がU-15ジュニアユースホッケー日本代表選手(18人)に選出。11月21日から24日まで開催されたオーストラリア遠征に参加されました。杉田さんは「世界一のホッケー選手をめざして、さらに努力したい」と熱い思いを話されました。



空手で全国に挑む(12月17日)



味間小学校2年生の吉田守禮さん(左)と、西紀南小学校3年生の秋葉英雄道さんが、それぞれ全国大会への出場を決めました。2人とも道場ではしんどい練習を好み、妥協をしない性格。吉田さんは「勝って賞を取りたい」、秋葉さんは「全国大会を楽しみたい」と話しました。

環境省の「自然共生サイト」に認定 パナソニックグループ労働組合連合会

■自然共生サイトとは・・・国定公園などの保護地域以外で、里地里山や企業が保有している森など、地域や企業、団体等の取り組みによって生物多様性の保全が図られた区域のこと

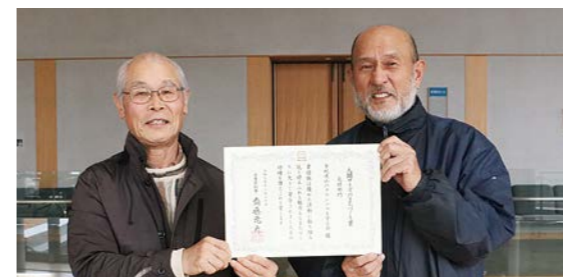


ユニトピアささやま内にある里地里山エリアが市内で初めて「自然共生サイト」に認定。棚田跡地を活用し、ため池や湿地を守ることで、多くの生きものの生息場所や産卵場所となっています。パナソニック エコリレー・ジャパンの天野康生事務局長は、「今回の認定は、これまで活動に関わっていただいた多くの皆さんの努力の積み重ねによる成果です。認定を追い風に環境教育の中心拠点として、生物多様性を学ぶ場として活用し、丹波篠山を盛り上げていきたい」と話されました。

県人間サイズのまちづくり賞(花緑部門)

知事賞

多紀連山のクリンソウを守る会



多紀連山の御嶽中腹に咲き誇る「クリンソウ」の保護活動に取り組まれています。2007年に篠山鳳鳴高校のOBらが偶然、小さな群生を目にし、専門家の踏査で大群落の発見へとつながりました。翌年には、自生地を保護しながら公開するとの方針で同会を結成。遊歩道の設置や、防護柵を設置するなど、保護に努めてこられました。細見隆夫会長は「長年の活動が認められてうれしい。群生地が市有地になったので、活用方法を一緒に考えていきたい」と話されました。

豊かなむらづくり全国表彰事業

近畿農政局長賞

大山地区農・水・環の会



農業・農村の保全活動を行う多面的機能活動組織として、2012年に10集落で活動を開始しました。各集落の課題は多様で単独での課題解決は難しく、2020年に広域協定を締結。翌年には丹波地域で初のラジコン草刈り機の導入に取り組まれたほか、郷土料理「とふめし」の伝承や、伝統野菜「天内芋」「大山スイカ」の栽培を大山小学校とともに協働で取り組まれています。伊勢隆雄会長は、「多面的に活動したことが評価され、うれしいです。今後も継続して取り組みたい」と期待を込めて話されました。

紺綬褒章 井関 道夫さん(曾地奥)



丹波篠山市への多額の寄付に対して、井関道夫さんに紺綬褒章が授与されました。紺綬褒章は公益のために500万円以上寄付した個人、1000万円以上寄付した団体に贈られます。今回の受章は、市の教育振興のために多額の寄付を行った功績に対するもので、市ではいただいた寄付を市内産木材を活用した児童用机・イスの購入などに充て、子どもたちのよりよい教育のために活用させていただきます。